



タイルを貼り付けた特別仕様品(左)と現在、開発中の信楽焼のタイルを埋め込んだ商品(右)

電子部品の製造や金属加工業、製造業を中心とした業務請負や派遣業務を行う前出産業株式会社。そんな会社が日本初の蓄熱式薪ストーブを販売している。

きっかけは同社が所属する滋賀県中小企業家同友会東近江支部の「薪のある暮らし方研究会」の活動だ。国産材を有効活用する手段の一つとして針葉樹を燃料とする薪ストーブを試作し、同社が製造・販売を手掛けることとなった。これまで日本で普及していた薪ストーブのほとんどは広葉樹を燃料としており、高温ですぐに燃え、さすが

燃焼効率が高く、 針葉樹も燃料に使える 蓄熱式薪ストーブ「Mark」シリーズ

▶ 会社DATA 前出産業株式会社

- 本社 / 近江八幡市上田町1288-18
- 設立 / 1974(昭和49)年
- 代表 / 前出 博幸
- 従業員数 / 125名(正社員29名)
- 事業内容 / 電子部品受託製造事業、業務請負・派遣事業、金属加工事業、環境関連事業
- 問い合わせ先 / TEL: 0748-37-1647
- URL / <http://www.maede.co.jp/>

多い針葉樹は燃料には不向きとされていた。Markシリーズは、^{きょうたい}筐体に1000℃以上の高温にも耐えられる特殊なセメント材料を使用。油分の多い針葉樹林でもさすがに少なく、不純物も出ないため破損や故障を引き起こすことが少ないのだ。

また、鋳物や鋼板製と違い蓄熱性も高く、薪が燃焼した後でも数時間放熱するため、薪の量が通常製品の6割程度に押さえられるという。今後は信楽焼のタイルを埋め込んだデザイン性の高い商品や設置場所のインテリアに合わせた商品の開発を進めている。

SHIGAGIN TOPICS

全国の地方銀行で初めて 「UCDAアワード2015(最優秀賞)」を受賞

「UCDAアワード2015」(主催:一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)の「銀行・信用金庫分野」において、当行は最優秀賞である「UCDAアワード2015」を受賞し、表彰式が11月5日、東京で行われました。全国の地方銀行で初めての受賞となります。

この賞は、企業・団体が生活者に発信するさまざまな情報媒体を、産業・学術・生活者の知見により開発した尺度を使用して「第三者」が客観的に評価し、優れたデザインを表彰するものです。今回、「共通印鑑票(新規口座開設用)」が「記入者の負担を軽減させるデザインである」と高く評価されました。

審査員からは、「記入項目が必要最低限で、あっという間に記入が終わった感じがした」「文字のフォント(書体)や大きさ、赤・青・緑の色彩バランスがよく、記入しやすい」「自分が記入するスペースと、銀行使用欄の色の差がはっきりしていて、わかりやすい」

などの声をいただきました。

当行は、CSR憲章(経営理念)に掲げる「地域社会」「役職員」「地球環境」との「共存共栄」の実践に努めてまいりました。今後ともお客さまの満足度向上に向けた取り組みを進めてまいります。



在間稔 代理理事長(左)より林常務にトロフィーが贈られました